林木育種センター だより

No.26

独立行政法人 林木育種センター

2002・1

林木育種センターホームページ　URL：http：//www.nftbc.affrc.go.jp　E-mail：ikusyu@nftbc.affrc.go.jp

―小笠原の希少な樹種の保存に向けて―

小笠原諸島のうちで，湿性高木林を中心に繁殖力の強い移入樹種アカギが本来の植生を駆逐しつつある所が各所で見受けられるようになり，これを島本来の植生に回復させるにはどうするのかが大きな課題になっています。

母島の中央部にある桑ノ木山オガサワラグワ等植物群落保護林もその一つです。

ここでは，数年前から関東森林管理局東京分局，森林総合研究所，大学などが試験地を設定し，アカギの繁殖を抑制するための生態調査や巻枯試験などが行われ，アカギが発芽から上層を占めるに至る過程が次第に明らかになってきました。

桑ノ木山オガサワラグワ等植物群落保護林

このような中で，当センターでは，関東森林管理局東京分局と共同で，林木のジーンバンク事業の一環としてアカギを駆除した跡地を利用して，林木遺伝資源の保存園を設定する計画を検討しています。この保存園では，母島の希少樹種等林木遺伝資源の減少や滅失の恐れのあるものを確実に保存し，これらの特性評価を進めることとしています。

進入した外来樹種のアカギ
植生のほとんどがアカギによって占められている

生命力の強いアカギ
巻枯したアカギの下部から萌芽し、
上部からは発根する様子

保存対象樹種は，母島ならではの希少樹種を中心にして，当面10樹種あまりの保存に向けて学識経験者，地元有識者，小笠原総合事務所国有林課などの協力も得ながら，保存園の位置決定，アカギなどの立木調査などを進めていきます。未知な点も多く，困難も予想されますが，ぜひ将来に残る保存園にしたいと考えています。

（遺伝資源部　探索収集課）

独立行政法人としての新年を迎えて

林木育種センター理事長　中道　正

新年明けましておめでとうございます。

迎えた2002年は午年であり，我が国では馬が干支の動物として擬せられている。この馬に託し一言述べるならば，行政改革の流れの中で民営化論が打ち上げられ，現在の組織形態に落着する過程が「走馬灯」のごとく思い浮かぶ。独立行政法人林木育種センターとしてスタートした我々は「駿馬」のごとく着実に障害を乗り越えるとともに，時には「駑馬」のごとく困難に向かう勇気も必要とされる。

林木育種事業が開始されてから45年の年月が経過した。この間，国有林野事業特別会計から林野庁一般会計に引き継がれ，今回独立行政法人として新たな経営体となったのである。会計間の移動時も業務運営の在り方に変化があったが，この度は業務運営の根幹部から変わることが求められているといえよう。

一つには，業務運営について他者への説明責任を強く負ったこと，その成果について学識経験者からの評価を受けることになったことである。新たな林木品種を開発し，また，保存する必要がある樹木をクローンとして保持する等我々の業務は林業振興上，あるいは森林環境保全上に貢献するものであり，社会的，経済的に存在感のあるものだ，と自負しているだけでは説明責任を果たしたことにはならないのである。業務の進め方と得られた成果が適正であったか，その成果がどこで，どのように活用されているのか等について自己評価するとともに，その成果を外部に発信し，評価を受けるということである。その評価如何は当センターの存続の在り方まで規定することとなる。

次に業務運営の自己完結制である。名称に独立行政法人と冠されているように，国からの交付金の費目別支途や，組織の変更は法人に権限委譲されていることである。業務運営上最適な時期に最適な支出を行い，最大の成果を上げることを求められてのことであろうが現実には困難な自前主義と困惑する部分が多いのも事実である。どこかに余った部分があれば，あれこれ動かし得るが，実際上あれも不足，これも欲しいばかりで悩みが深い。

とにもかくにも独立行政法人として出発した我々である。先人の汗と努力の結晶である集積された林木の成長，材質等の特性データや林木育種技術やノウハウの蓄積がある。森林機能の高度発揮や環境保全を図ろうとする新たな森林，林業基本法の理念を体現できる分野を担っているとの自負を持って業務を推進することが発展の近道と考えられる。

職員各位の御活躍と御家族の皆様の御多幸を心より祈念する次第である。

平成13年度　林木育種推進地区協議会

これまでの「林木育種事業運営要綱」（農林水産事務次官依命通達）が廃止され，また，林木育種センターが独立行政法人に移行してはじめての林木育種推進地区協議会が各育種基本区において開催されました。以下この概要を紹介します。

関東地区協議会（神奈川県箱根町）

北海道地区協議会

林木育種推進北海道地区協議会は，6月29日札幌市内において，林野庁，林木育種センター，森林管理局，北海道，大学，林業関係機関等の関係者43名が出席し開催されました。

まず，これまでの林木育種事業運営要綱の廃止に伴い，北海道育種基本区の今後の林木育種推進方向に関し，地区協議会として「林木育種事業推進計画」を作成することや林木育種事業の実施状況を取りまとめることを協議し了承されました。

具体的な内容等については，北海道，森林管理局，北海道育種場との専門部会で検討していくことを提案し了承されました。

引き続き，各機関から平成12年度林木育種事業結果報告があり，平成13年度北海道育種場の推進する事業計画と育種種苗の普及の現状について説明を行い，一層の普及率の向上を図ることとしました。

また，北海道から，採種園の現状と整備及び今後の進め方についての説明と助成拡大の要望がありました。最後に，関係機関から着花状況の報告，研究トピックス等の情報交換があり，本年度の協議会を終了しました。

東北地区協議会

林木育種推進東北地区協議会は，7月12日に新潟県村上市，朝日町において開催されました。その概要をお知らせします。

最初に，東北地区協議会の運営について，東北育種場から平成13年度以降の運営体制が提案され，採択されました。

東北育種基本区の林木育種事業推進計画の作成については，東北育種場から基本区の課題や特色を踏まえて関係機関が連携して推進することの必要性から本計画の作成が提案され，了承されました。

重点課題である東北地方等マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業の取組については，国庫補助事業終了以降の二次検定の推進体制などが議論の中心になりました。

育種種苗の生産と普及については，東北育種場からミニチュア採種園造成プロセスが示され，県と連携を図って優良種苗の普及に当たることとされました。併せて宮城県の林木育種事業の普及に対する多様な取組が紹介されました。

また，これまで開催されてきた技術部会については，林木育種事業及びこれに関する調査研究の諸問題解決や相互連携のために再編され，今秋以降も開催されることになりました。

最後に，今後とも東北育種基本区における関係各機関が，連携を密にして協力しながら林木育種事業を推進することを確認し，盛会裏に終了しました。

関東地区協議会

林木育種推進関東地区協議会は，７月17日，神奈川県足柄下郡箱根町において，林野庁，林木育種センター，関係都県，関東森林管理局東京分局，森林総合研究所，林木育種協会から39名の出席を得て開催されました。会議の概要は，以下のとおりです。

はじめに，今年度以降の協議会の運営について，林木育種センターから提案を行い，関東地区協議会において了承されました。

次に，関東育種基本区林木育種事業推進計画の作成について説明を行うとともに，花粉の少ない品種の開発や第二世代精英樹の選抜について協議を行いました。また，育種種苗の普及について，林木育種センターから種苗配布要望計画書の作成の依頼と，今年開催する林木育種技術講習会への出席をお願いしました。

林木のジーンバンク事業の推進につては，林木育種センターから今後５か年間の林木遺伝資源の収集計画について説明を行うとともに，収集のための情報提供など，連携，協力について各都県等にお願いしました。

各機関から提出された提案・要望事項については，①育種集団林の効率的な造成②東北地方等マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業の継続③有用広葉樹の採種園造成技術の指導④スギ雄花の着花抑制技術の開発⑤広葉樹種苗の配布地域の指定⑥遺伝資源保存の都県との連携強化⑦各都県における絶滅危惧植物保存の取組等があり，林木育種センターと林野庁，関係都県がそれぞれコメントを行いました。

関西地区協議会

林木育種推進関西地区協議会は，7月5～6日，富山市において林野庁，森林総合研究所，近畿中国森林管理局，緑資源公団，林木育種協会，関係18府県と林木育種センター及び同関西育種場から46名が出席して開催されました。

関西育種場から①林木育種推進体制，独立行政法人林木育種センターの中期目標・中期計画・平成13年度計画，当場の平成13年度の事業運営重点事項及び林木遺伝資源の収集・保存等の計画について説明を行いました。林木育種の推進について，造林面積の推移や主要樹種の種子・穂木生産の推移の説明を行い，育種種子普及率向上について要請しました。②協議会の運営については，実施状況の取りまとめ等を提案し，原案どおり了承されました。③提案要望事項については，抵抗性マツ採種園の改良事業，各県の抵抗性クロマツ種子採取量が知りたい等の要望があり，それぞれ担当から説明しました。④関西育種基本区林木育種推進計画の作成については，後日案を送付し意見をいただくこととなりました。

2日目は，富山県林業試験場と富山県中央植物園において現地検討会を行い終了しました。

九州地区協議会

林木育種推進九州地区協議会は，6月5日，鹿児島県牧園町他において52名が出席して開催されました。協議の概要は次のとおりです。

九州育種場より平成13年度から独立行政法人に移行したことに伴う林木育種推進体制及び九州育種場の研究・林木遺伝資源の主な取組事項について説明し，協力をお願いしました。

林木育種の推進については，育種種苗の生産と普及について各機関の生産状況を説明し，育種苗の普及についてより一層の取組を要請しました。スギザイノタマバエ抵抗性育種ついては，39クローンを抵抗性品種としたい旨説明しました。リュウキュウマツのマツノザイセンチュウ抵抗性育種については，九州育種場での取組状況を説明し，家系間で健全率に差が見られたことから，抵抗性育種の可能性が示唆されたことを紹介しました。ヒノキの複合形質優良個体の選抜については，九熊本第26号遺伝試験林での選抜の経過等を説明しました。また，育種場で品種登録を行ったスギ「屋久翁」を紹介しました。

提案要望事項として，抵抗性マツの品質表示，苗木生産・施業体系等の情報提供について提案要望があり，育種場からコメントを行いました。

林木育種技術講習会の開催

次代検定林データ処理の実習

センター本所

平成13年7月23～25日の３日間，林木育種センター本所において，林木育種技術講習会を開催しました。本講習会は育種技術の向上を目的に，関東育種基本区内都県の林木育種担当者を対象として行ったものです。

田島育種部長から独立行政法人化に伴う今後の研究と事業の推進体制について説明し，所指導課長から次代検定林の調査等について協力を依頼しました。その後，次の内容について講習を行いました。

採種園・採穂園の管理については，①林業種苗法から採種園・採穂園の改良に至る規程類②設計・施業方法③精英樹特性表を用いた改良方法についての説明を行いました。

次代検定林のデータ入力処理については，①今回新たに作成した次代検定林入力システムの概要説明②パソコンを用いての入力から解析結果の出力までの一連の操作方法の実習を行いました。

なお，講習会終了後に，今回行った講習内容等についてのアンケート調査を行いましたが，次代検定林入力システムの解析結果をグラフを使って表示できないか，また，今後希望する講習内容としてＤＮＡの識別方法や現場での実習を行ってほしい等の意見がありました。この調査結果を踏まえて，次回は更に充実した講習会にしていきたいと考えています。　　（育種部　指導課）

都県育種担当者の講習会

マツノザイセンチュウ接種検定の適正化

関西育種場

今年度の林木育種技術講習会は，7月18～19日に13府県18名が参加して当場で行いました。

この講習会は，マツノザイセンチュウの接種検定によるマツの生存率が実施機関によって大きな違いが見られた（平成12年度実施報告）ことから，接種条件の統一及び接種検定の適正化を図ろうと行ったもので，第１日目は，参加者全員，接種実習を行い接種方法を習得しました。また，マツノザイセンチュウの培養・分離方法，分離したセンチュウの取り扱いについても学びました。

マツノザイセンチュウの接種実習

翌日は，マツノザイセンチュウ抵抗性マツ特性表の作成について，特性表に載せる項目（成長，抵抗性，着果量，樹脂道指数，接種時の苗高，対照家系）等について話し合い，府県の協力を得て共同で作成することを意思疎通しました。

また，抵抗性マツ二次検定，雄花の少ないスギの種苗配布等について，該当県の担当者と個別に打合せを行いました。

ベトナム短専記Ⅰ
～ホーチミンからタンホアまで～

ベトナムのタンホアでは，ホーチミン市にあるベトナム森林科学研究所南部支所（以下ＦＳＳＩＶ）が中心となり，ＪＩＣＡプロジェクトのメコンデルタ酸性硫酸塩土壌開発計画が行われています。このプロジェクトは，1997年3月から2000年3月までの3年間行われ，今年度は2年間のフォローアップの最終年度となっています。この間，上記プロジェクトに短期専門家として3度出向き，最終的には採種園の設計までの一連作業の技術指導を行ってきました。

実際に作業が行われている現場は，ホーチミン市から車で南に１時間半ほどいった所にあるタンホアという町です。

タンホアのサイト～現場事務所～

今回は，宿泊地であるホーチミン市からタンホアまでの道のりにあわせて，観光地では見られないベトナムを紹介します。

よく雑誌などで紹介されているベトナムの風景に，道いっぱいに広がるバイクの様子が見られますが，朝晩の通勤時間などは，どこから集まってきたのかものすごい数のバイクと自転車で道が一杯になってしまいます。車などは身動きがとれない状態です。こういった中を潜り抜けるようにして市内を過ぎ，国道１号線を南下していくと，中国資本の大工場がしばらく続きます。その後は，田園風景と町並みを繰り返し，途中の市場で昼食の食材を購入してサイトに到着です。

ホーチミン市内での買い物は高くなってしまうためカウンターパートの女の人は，移動の途中にある町の市場に寄って買い物をしています。市場には，新鮮で安い野菜や果物が豊富に売られており，人々でにぎわっています（市場のおばさんは恥ずかしがり屋で，カメラを向けると床の下に隠れてしまいました)。

タンホアの市場風景

ベトナムでは，公的機関やホテル及び土産店を中心に民族衣装のアオザイを着ている女の人がいます。市内の刺繍店に行くと華やかで凝ったデザインのものを着ている人が多く見かけられます。当然，普段着ではないのでしょうが，カメラマンにとっては絶好の被写体になると思います。３年前には，学生は民族衣装のアオザイを着ると聞いていたのですが，今年６月に出かけたときは洋服の学生もいてビックリしました。ベトナムの文化も変わっていくのでしょうか。

次回はプロジェクトでの生活を中心にご紹介します。　　（育種部　育種課　植田　守）

アオザイを着て通学する高校生

木の特徴，名前学ぶ
～「子ども樹木博士」も実施～

関西育種場

総合学習の時間を利用して，香北小学校（岡山県鏡野町）の三，四年生11名が，担任の先生に引率されて来場しました。

当小学校は年間を通じて，学校の行事として「森」をテーマに勉強中で，今回は関西育種場が勉強の場所に選ばれました。

当日は，当場の職員が場内を歩きながら広葉樹を中心に，現物にさわったり，臭いをかいだりしながら木の特徴，名前の由来等２時間位にわたって説明しました。生徒達はダイオウショウの松ボックリやユリノキの実を拾ったり，ナツツバキの実に興味を示すなど真剣に観察しており，説明時間が少ない感じでした。

その後，先生の希望で，「子ども樹木博士」に挑戦しました。現物の葉っぱ等により樹木の名前を答案用紙に書く試験を行い，正解数により級や段の認定を行いました。

今回は，授業時間の関係で20問出題し，結果は初段の人（10問以上正解）がほとんどで，小学生の真剣な取組の結果大変好成績となりました。

熱心に説明を聞く小学生

子ども樹木博士に挑戦

人の動き

氏　名	新　職　名	旧　職　名
【平成13年６月29日付理事長発令】		
若井　知鶴	東北育種場連絡調整課庶務係	休職（育児休業）
【平成13年６月30日付理事長発令】		
田村　正美	退職	東北育種場遺伝資源管理課収集管理係長
佐川　諭史	退職	関西育種場育種課育種技術係
【平成13年８月１日付理事長発令】		
柏木　治美	林野庁出向（職員厚生課課長補佐）	企画総務部総務課長
三好　誠司	企画総務部総務課長	近畿中国森林管理局森林整備部企画官
所　芳博	林野庁出向（名古屋分局鑑定管理官）	育種部指導課長
加藤　義明	育種部指導課長	東北森林管理局由利管理署長
織田　春紀	主任研究員（遺伝資源部）	東北育種場育種課長
河崎　久男	東北育種場育種課長	主任研究員（東北育種場）

～小学校で樹木のお話をしてきました～

高萩市の北東部にある松岡小学校は，緑や歴史的建造物に囲まれた，落ち着いた環境にあります。ここの四年生は，いま「木となかよしになろう」という授業を行っています。身の回りの自然に目を向けさせること，校庭の樹木にネームプレートをつけることを目標にしたもですが，この一環として 10月下旬に，約80名の子供達に木の授業（？）をしてきました。

「校門の脇に大きなメタセコイアがあるけど，あれの高さは何メートルかわかるかな？」こんな問いかけに，初めは「60ｍかな」，「40ｍくらいありそう」などと話していた子供達も，12ｍの測竿を脇に立てるとおおよその高さが理解できたようでした。ほとんどの子供達が20～25ｍと予想する中，測高器を使って測ってみると22.9ｍでした。あらためて子供達の感覚の確かさに感心させられました。

６名ほどの班単位で，葉っぱと校庭の地図から木の名前を当てる簡単なゲームを行いました。かなり難しいかなと思ったのですが，全員が校庭を走り回り，ほとんどの班が瞬く間に名前を当てることができました。その後，画用紙に木の絵を描いてもらいました。丁寧に描かれた葉っぱの絵，何人かの絵をつなぎ合わせると大きな木になるもの，画用紙を樹皮にあて鉛筆でこすった絵等々，子供達が工夫してユニークな絵がたくさんできました。これをもとに，校庭の樹木図鑑のようなものができたらすばらしいな，などと思わせる絵でした。

子供達の好奇心のかたまりのようなキラキラした目と元気いっぱいの姿がとても印象に残り，授業を受けたのは，逆に私の方だったのかも知れません。（遺伝資源部　保存評価課　生方　正俊）

生方室長の授業風景

◆◆◆◆◆ 農林水産省からのお知らせ ◆◆◆◆◆

さらに詳しい情報は、厚生労働省、農林水産省のホームページをご覧下さい。

厚生労働省（http://www.mhlw.go.jp）
発行者：財団法人 日本食肉消費総合センター
TEL:03-3584-0291 FAX:03-3584-6865
社団法人 全国牛乳普及協会
TEL:03-3262-7181 FAX:03-3262-7180

農林水産省（http://www.maff.go.jp）
後援：農畜産業振興事業団
TEL:03-3583-8562 FAX:03-3584-1246

平成14年 1 月 1 日 発行　編集：独立行政法人林木育種センター　〒319-1301 茨城県多賀郡十王町大字伊師3809-1　電話 (0293) 32-7000
この冊紙は再生紙を使用しています。